

第 68 回 自然は偉大だ…？

I T 生

先日、聖徳太子の取材で、富士山のふもとに広がる富士吉田に行った。

知らなかったのだが、聖徳太子が黒駒にのって、富士山ごえをしたという伝説がある。1000 年以上前から、伝承されている話で、法隆寺はじめ全国の寺院に、絵画で残されている。親鸞聖人も関東行脚の際、この伝承の足跡を訪ねて、富士山のふもとまで足を運び、そのあたりの寺院は、軒並み、浄土真宗に改宗しているほど、影響力のある話だ。地元の学芸員にきくと、富士山の噴火と関係があるという。



浅間神社から望む富士山と、その裾野に広がる富士吉田のまち

この伝承がつくられ、広がった、古墳時代から平安時代まで、富士山は噴火を繰り返していた。多いときは、数十年に一度、噴火した記録が残る。学芸員によると、そうした噴火の時代に、聖徳太子は黒駒にのって、富士山に飛翔したのだ。まるで、米国のヒーロー、スーパーマンである。学芸員は「聖徳太子をたたえるのにこんなスーパーな話はないでしょう」。もちろん、聖徳太子は、飛び越えただけでなく、霊峰富士山の神仏と問答しにいったのだ。だから、スーパーなのだ。救国の扉を開けに、燃え盛る地獄に足を踏み入れたのだ。という伝承が、今も人々の口から口へ語り継がれているのだ。

それにしても、富士の裾野に広がるまちは「すごい！」としかいいようがない。まちなちちにある浅間神社からまちを望むと、富士山の裾野の傾斜に上に、張り付くように広がっているのだ。先日、富士山が噴火した際の被害想定が公表されたが、溶岩が流れてくるだけでなく、まちなちちのある裾野のあちちが噴火すると想定されている。過去に溶岩が流れ止まった場所に、浅間神社が鎮座しているというから、神社の場所を確認しても被害の大きさは分かる。

学芸員にきくと、「覚悟してここで生活しています。きっと、聖徳太子の伝承は、そうした覚悟をわれわれに問うているのでしょう」という。なるほどと思った。

(令和3年3月)